

# 2030年代をみすえた機能統合型コミュニティ形成技術 「おたがいさまコミュニティ」

## 解決したい課題・研究開発目標

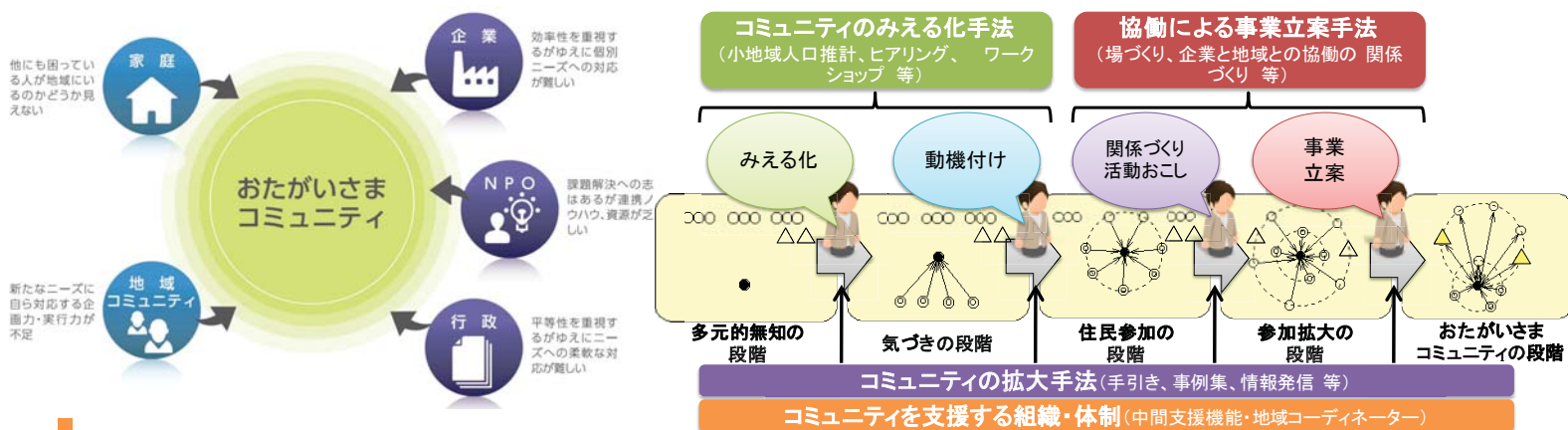
### 【現状と課題】～これまでの地域社会

- 高度成長期より個人・家庭、企業、公共の各セクターへ機能分化する分業モデルで成り立ってきた  
⇒ 超高齢社会において複合化した地域課題の出現  
⇒ **機能分化した主体が個別に対応するだけでは解決できない**

### 【研究開発目標】

- 各セクターが行動原理の違いを乗り越え、地域課題を協働して解決する関係性を備えた地域  
(**機能統合型コミュニティ＝おたがいさまコミュニティ**)の形成
- 2030年代を見越した住民をはじめとする様々な主体による「おたがいさまコミュニティ」形成・運営を支援する「**サポート技法(＝手引き、ツール、体制)**」の開発

## ■ おたがいさまコミュニティのイメージとサポート技法開発の位置づけ



## 対象コミュニティ・関係者

【対象コミュニティ】 福岡市内の3小学校区(戸建住宅型、集合住宅型、新興住宅型)

【主要な関係者】 各校区公民館・自治協議会、福岡市社会福祉協議会 等

地域名	選定の観点			
	住宅開発の状況	人口の流動性	コミュニティの状況	高齢化の状況
<b>美和台地域</b> 	丘を切り開いて造成された開発後40年経つ、郊外型の戸建中心のエリア	低い (多少の若年就業層の流出、若年ファミリー層流入がある)	地縁コミュニティの結束が強い地域	(2010) 22.3% ↓ (2030) 30.9%
<b>金山地域</b> 	丘を切り開いて造成された開発後40年経つ、郊外型の戸建・集合住宅(UR開発)混在エリア	高い (単身者・ファミリー・学生の5年以内の転入出が多い)	地縁コミュニティの結束が弱い地域	(2010) 25.5% ↓ (2030) 33.6%
<b>アイランドシティ</b> 	埋立造成の新興開発エリア(約10年、開発中)戸建・集合住宅混在エリア	高い (流出少なく、今後さらに新規住民の流入予定)	地域マネジメントを導入、地縁団体は未組織。多数のモデル事業を展開	(2010) 3.4% ↓ (2030) 上昇

● **事業運営型コミュニティ形成モデル**  
 ・「地域応援カード」を媒介とした、事業者が地域に協力する仕組みづくり  
 ・地域・事業者による協働企画の立案  
 ・NPOによる事業運営の体制づくり

● **地域拠点型コミュニティ形成モデル**  
 ・多様な主体が関わる地域カフェづくり  
 ・ニーズのみえる化と、活動発足を促す仕組み  
 ・事業者との連携トライアルプログラム

● **将来の地域の高齢化に向けたコミュニティの関係性分析**  
 ・上記2地域のアセスメント手法を応用したステークホルダー分析  
 ・地縁コミュニティが弱い場合のコミュニティ形成モデルの考察

# プロジェクトの現在とPJ期間内の見通し

お問い合わせ先 公益財団法人九州経済調査協会  
調査研究部 南 伸太郎 092(721)4905 minami@kerc.or.jp

## 【プロジェクト期間内に開発する社会技術】

- ・「コミュニティのみえる化」手法手引き(ヒアリング、ワークショップ等)⇒草案作成、さらに改定中
- ・「協働による事業立案」手法個別プログラム⇒リビングラボモデルへの統合モデル
- ・中間支援機能・地域コーディネーターのモデル⇒福岡市の実態に即した実装化の検討

### 金山地域

### 美和台地域

### アイランドシティ

## アセスメント (小地域人口推計、キーパーソンヒアリング 等)

- ・高齢者孤立死への不安
- ・転居が多く交流が少ない
- ・高齢化をみすえた見守り活動
- ・複数の大学が近隣に立地

- ・活動活発、地域ブランド力有
- ・コミュニティバス等の社会実験
- ・悩みの多い子育て世代
- ・教育機関や病院が地域に浸透

- 2地域のアセスメント手法を応用したステークホルダー分析
- ・地縁コミュニティが弱い場合のコミュニティ形成モデルの考察

## 動機付け・活動アイデア創出

- 地域データを提示して自身の将来を想像
- ニーズ・資源から活動アイデアをつくるワークショップ



## 企業関連

### ニーズ把握

- 研究報告セミナーでのニーズ把握、関心ある事業者の名簿作成

- 金山もちよりカフェ
  - ・多世代・事業者がモノ・力を持ち寄り交流を創出
  - ・ワンコインカフェ、人材活用、事業者サービスの提供

- 美和台コミュニケーションズ
  - ・「孤立」をなくし、多世代の交流が生まれる活動
  - ・空家活用、子どもの放課後サポート、多世代食堂、街情報発信

## 相互理解の場づくり

- おたがいさまコミュニティフォーラムの開催
- ・地域・事業者・行政・研究者が相互の課題やニーズを知る
- ・110名参加、アンケートでは協働実現事例も確認

## 交流と事業が生まれる場づくり

- トライアル:おためしカフェ(25年度2回)
- ・36種のニーズみえる化、動機付け
- 地域主催「カフェ・たまり場」(26年度6回)
- ・各回延べ80~100名参加、9の事業者等が参加。ニーズに応じて協働が成長

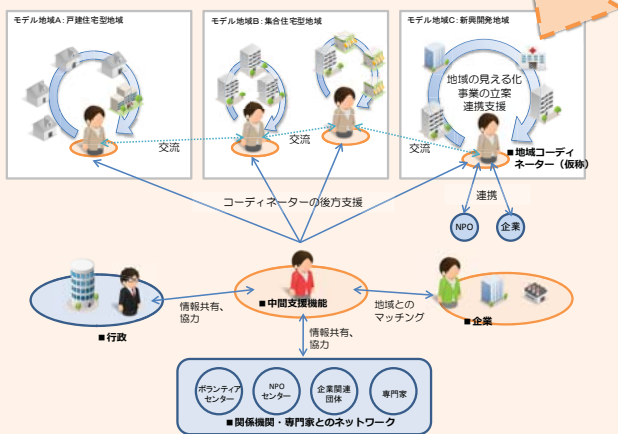
## 事業者による地域応援の仕組み

- 企画検討支援
- ・地域・事業者協働の事業策定の支援(ワークショップ等)
- 核となる地域組織の事業立案支援
- ・事業者と地域の接点となる事業組織(NPO)の事業化支援



## 支援体制のモデル化

## 協働事業立案手法の統合



【中間支援機能・地域コーディネーター】

## おたがいさまの拡大



【福岡型リビング・ラボのモデル】

コミュニティのみえる化

協働による事業立案

支援組織・体制